

# 穂発芽しにくい寒地向けのパン用小麦系統「北海265号」

農研機構 北海道農業研究センター



近年では、梅雨のない北海道でも小麦の成熟期である7月に連続した降雨があり、収穫前のタネが穂から発芽し、品質が低下する“穂発芽”の被害が増えています。そこで、収穫前に雨にあたっても穂発芽しにくいパン用の新しい小麦系統「北海265号」を開発しました。

## 1 穂発芽の発生が増えています



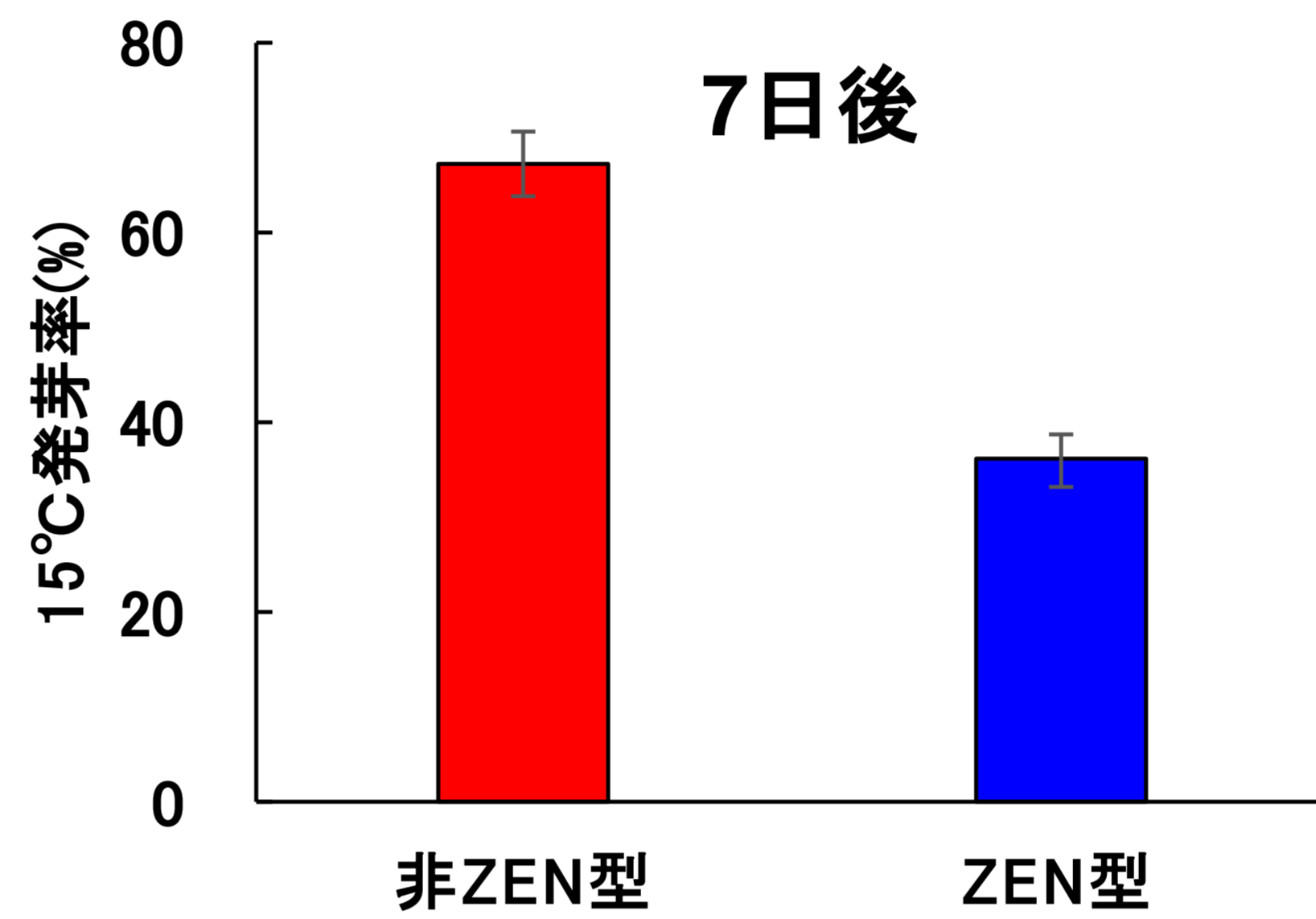
育成地(北海道河西郡芽室町)では、パン用主力品種「ゆめちから」はここ5年間で“穂発芽”被害が2回みられています。

図1 穂発芽した穂

表1 育成地における5年間(H23~H27)の穂発芽発生状況

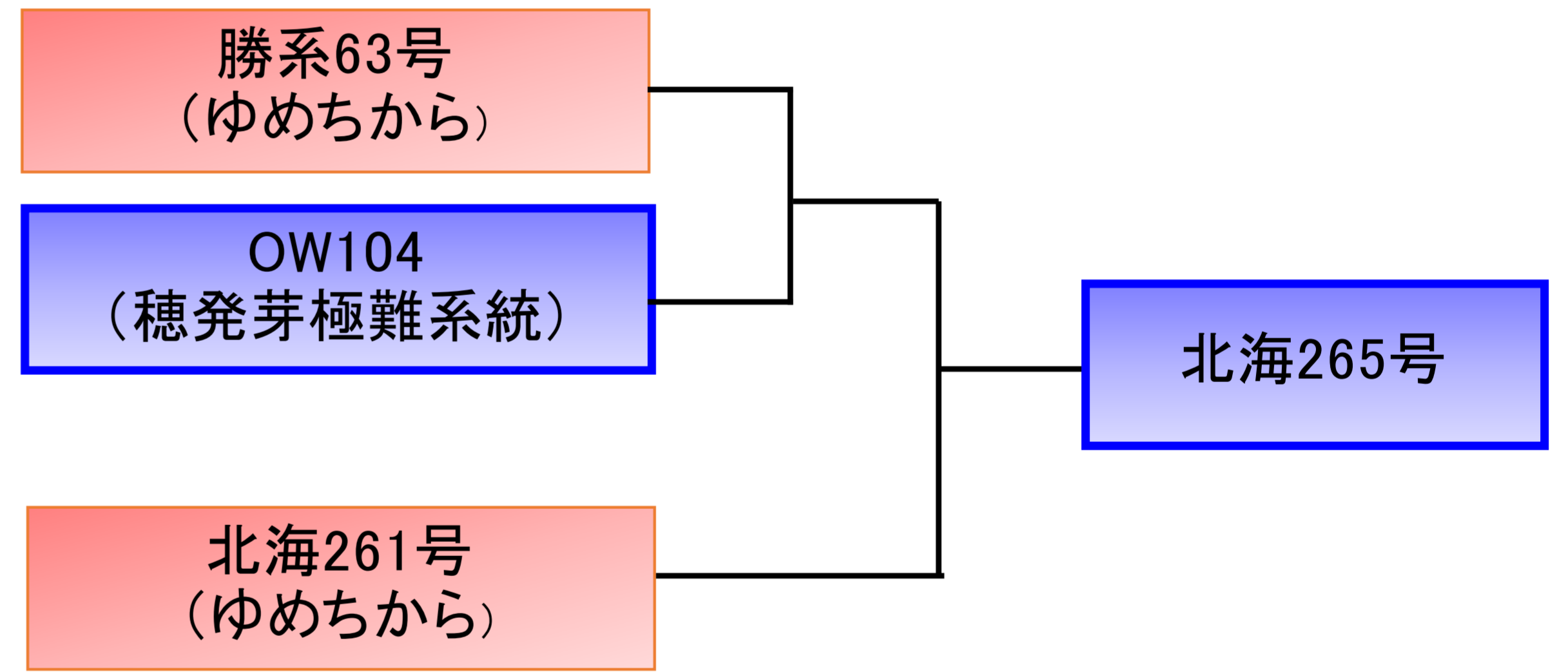
品種・統名	穂発芽耐性	H23	H24	H25	H26	H27
きたほなみ	やや難		発生			
ゆめちから	中		発生			発生
キタノカオリ	やや易	発生	発生		発生	発生

## 2 発芽を抑える性質を持たせてみました



発芽を制御するMFT遺伝子がゼンコウジコムギ型(ZEN型)の系統は発芽しにくくなります。

図2 MFT遺伝子型の違いによる発芽率の差



■ : MFT遺伝子非ZEN型  
■ : MFT遺伝子ZEN型

図3 「北海265号」の交配親

## 3 「北海265号」は雨にあたっても穂発芽しませんでした

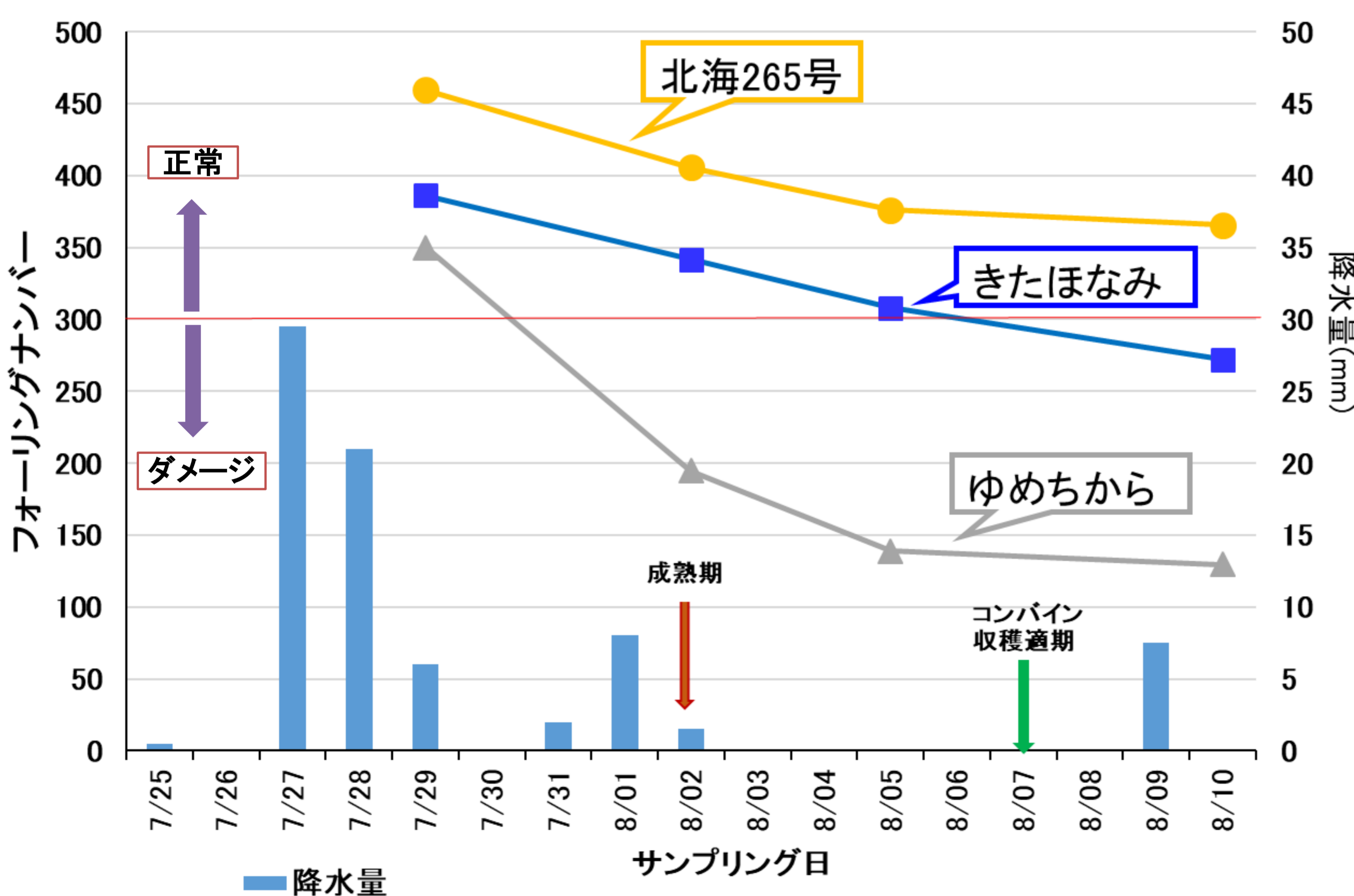


図5 北農研試験圃場(北海道芽室町)における成熟期前後の降水量と「北海265号」及び比較品種のフォーリングナンバーの推移

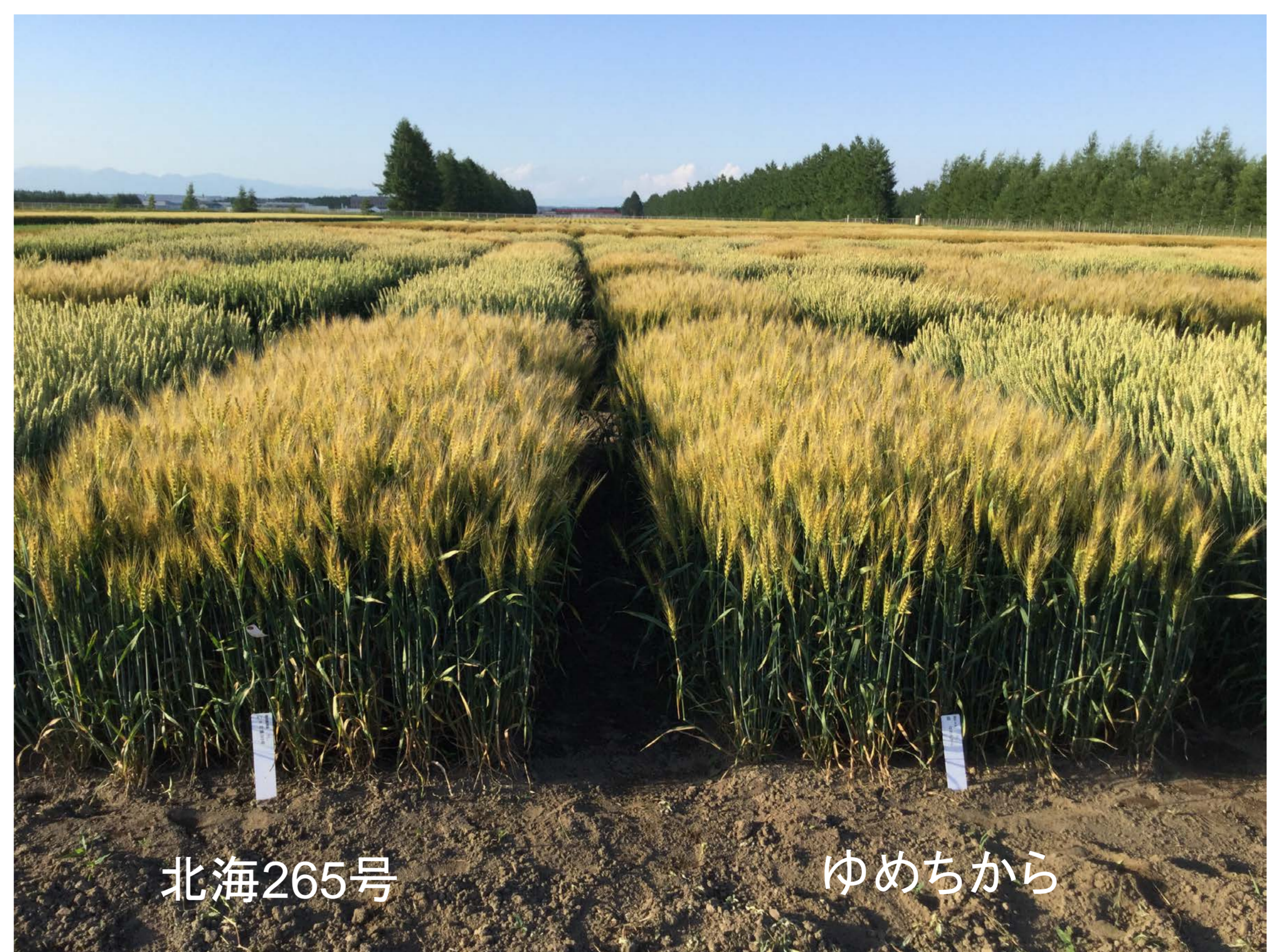


図4 「北海265号」と「ゆめちから」の草姿

平成27年度は育成地のある北海道の十勝地域で成熟期前後に連続した降雨がありましたが、「北海265号」は収穫時期まで穂発芽ダメージを受けませんでした。  
※フォーリングナンバー: 穂発芽によるダメージを評価する数値で300以上が正常

- 普及・社会実装への道筋
- 平成30年に品種登録予定です。